

異種

女奴

妊孕奇譚

第三幕



逃げてください!!

エタンダール様が来るまで
私たちが可能な限り
魔物を食い止めます…!!

グン

グン

散開して
迎え撃つぞ

了解!!

これが魔物……!!

もうこれ以上、
街のみんなを襲わせない!!
一匹残らず倒す……!!





ギョッ

ガッ

よし...!!

討伐1...!!

右から来るか...!!

ド

むっ
かしっ

!!

さっきの
ゴブリン?!

心臓を貫いたというのに
まだ生きていますの!?

グワッ

ズム

モロ

!!

グワッ

ギャああああ!!



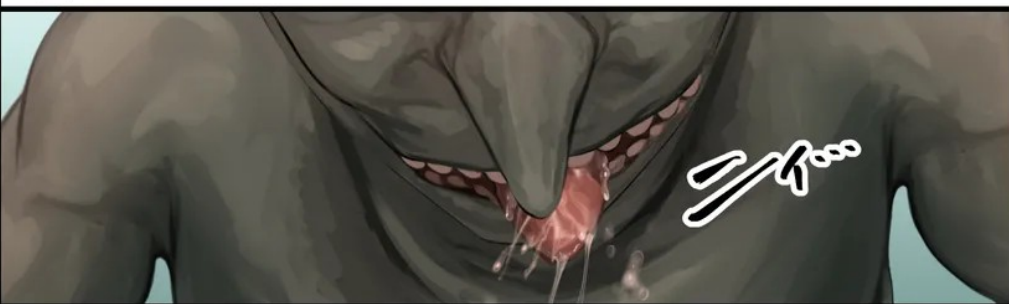
「ドサッ」

まずい……!!

はやく体制を……

「グッ」

彼女にとってもっとも足りていなかったものは



「グッ」

戦闘経験でも頼りになる仲間でもない



わっ!!

「んっ!!」

もみ……

もみ……

それはエッチな
攻撃への耐性であった。

グーやあッ!

グッ

グッ

グッ

自らの命よりも
目の前の雌を犯すことを
優先するゴブリン達を
相手にする上で

このままでは私も
孕まされてしまう…!!

それは何よりも
大きな弱点となる。

はぁ…

はぁ…

はぁ…

それだけは

!!



ぽんぽん!!

……?
?

性器を胸に持ってきて……
何をしているのこイツ……?

♡ぽん♡
♡ぽん♡

はぁ……

はぁ……

ずり ずり

♡ぽん♡

でもスキが
できた……!!

左手が死角に
なっている隙に…

槍を…!!

っ!?

っ!?

ビュッ
ブルルルルル

ドッ ドッ

くさ…!!

…??

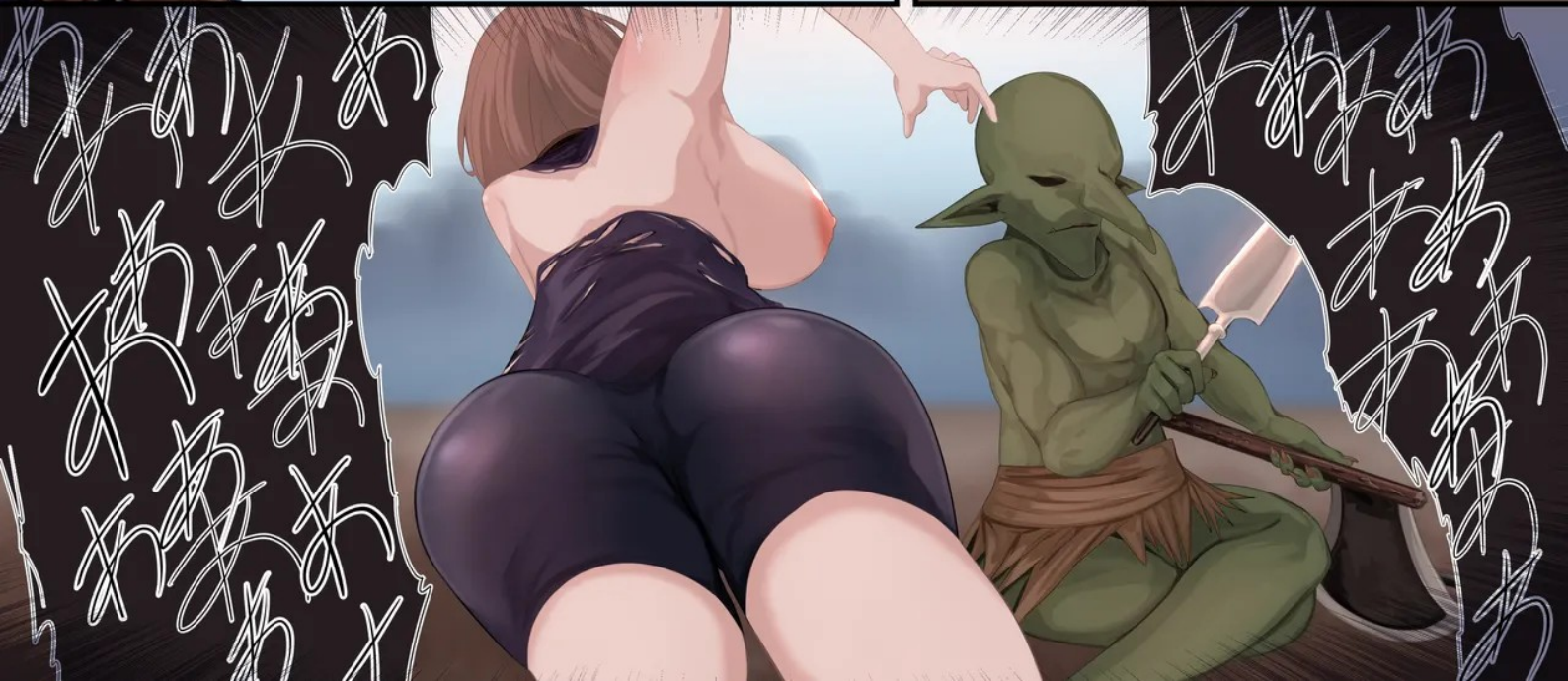
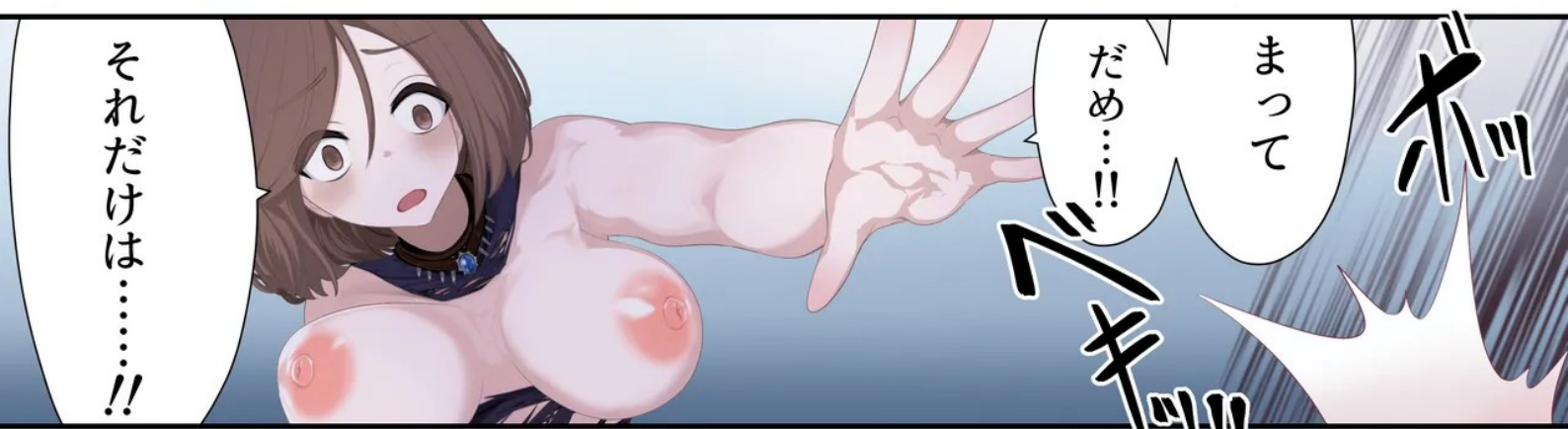
倒れた…
死んだのか…?

これって…、
精液…!!?

ねとろ…

最悪…!!

ドサッ





↑
↑
↑

↑
↑
↑

↑
↑
↑

↑
↑
↑

はあ...

はあ

はあ

はあ...

はあ

はあ...

はあ

はあ...

エタンドール様.....
みんな.....

ごめんなさい.....

私

なにもできなかつた

「ペロ」

「ビュルルル」

わかった

戦線は
任せたぞ

思ったより
数が多い
援護要請
のためるか

君らも
一緒に来い
衛生兵のそこへ
行くぞ

はっ

すみません…

……!!

今の声——!!

リタか!?

あ

おい、待て!!

勝手に
行動しては……!!

ノ





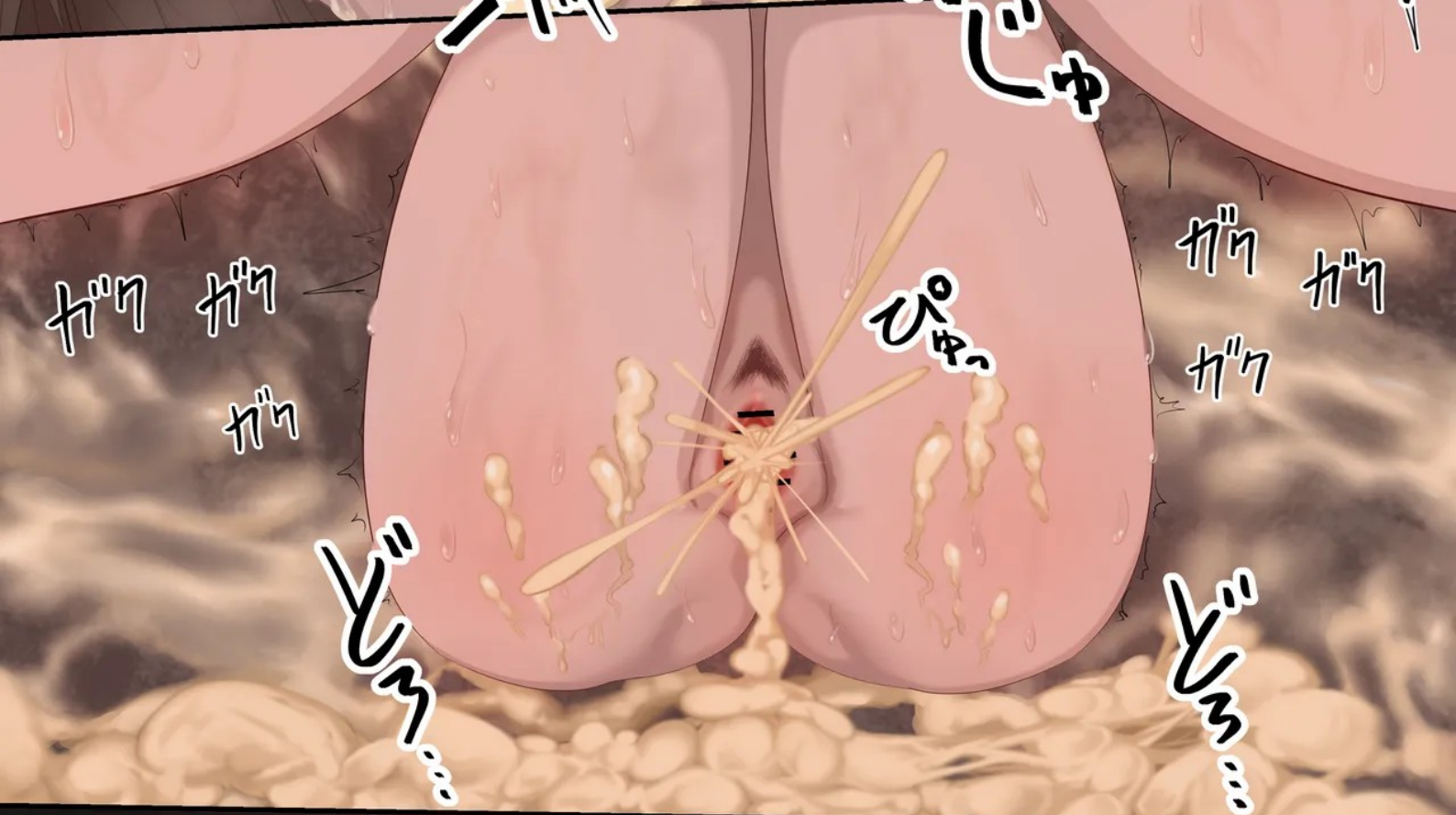


ぐほろ

んん!!

んん

んん



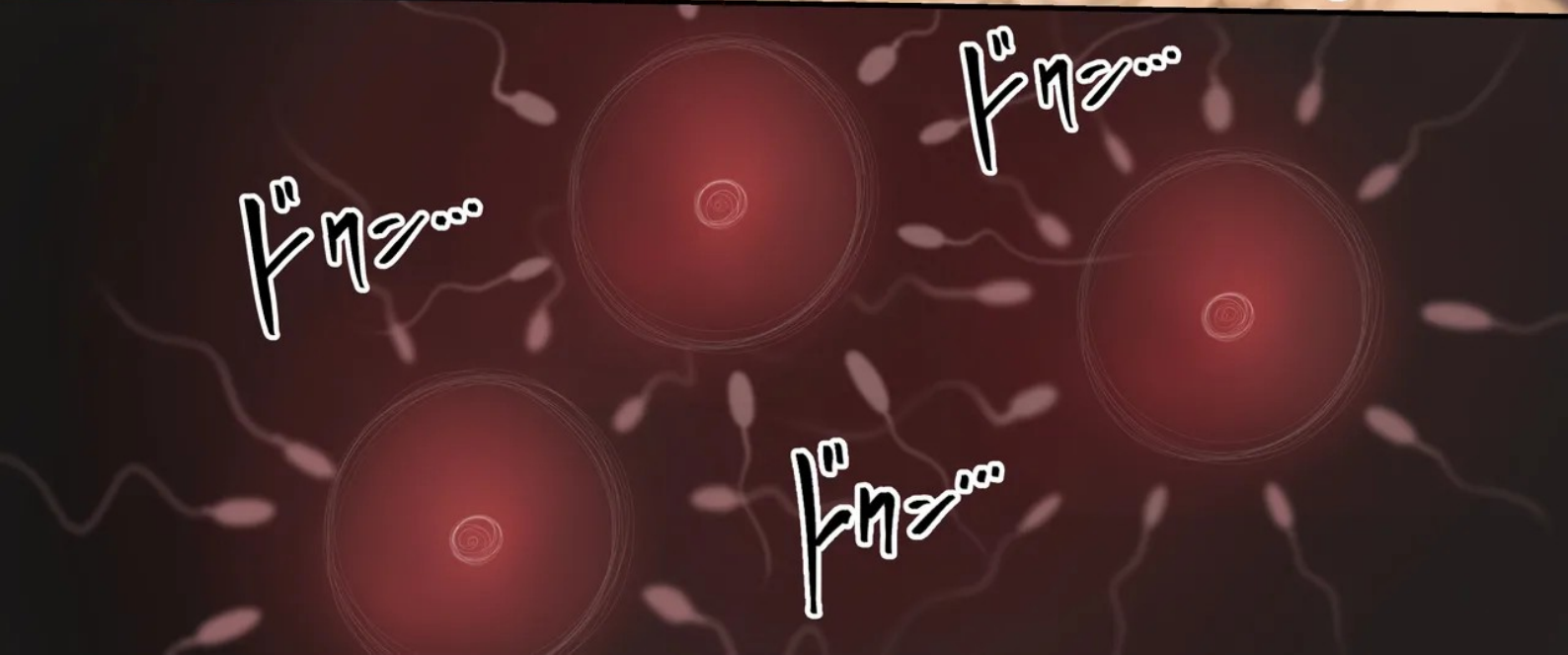
んん
んん
んん

んん
んん
んん

んん...

んん...

んん



んん...

んん...

んん...

よりによって

エタンダールが
街から離れている
ときに襲撃
されるとはな

こいつら
賢いからな

人間の中で
どいつが脅威に
なるかってこと
くらいは
理解できる

状況は？

はっ

現れたのは
ゴブリンの
集団

交戦中の個体は
すべて始末
しました

今は残党がいなか
探してるところです

!!

き

君は…

どうして彼らを
戦闘に加えた!!

ひよっこを同等の
戦力として扱って
分散配置したら

戦力的なムラが
生じるのは
当たり前だ!!

ゴブリンだろうが
人間だろうが
弱そうなのに
戦力を集中して
攻撃される!!

お言葉ですが
副団長
我々は今
戦力的に
逼迫している
のです

状況をはかり
かねているのは
あなたです

そもそも
主戦力であるあなたは
街から離れるべき
ではなかった

.....

中央騎士団から
派遣された増援とはいえ

たったひとり
迎えに行くために...

よせ

我々も
浅はかだった

こちらの都合で
新兵をいきなり
前線に立たせた
のは下策だ

少なくとも
今この場で

言い争いを
するべきではない

.....

あの
ゴ布林

強かった

ゴ布林は
本来臆病な
生き物

でも女を一度でも
犯ったことの
あるやつは違う

自信がある

女を
はらませて

仔を産ませて
本能を満たしてる

自信を得れば闘いに
迷いがなくなる

だから強い

非童貞って
わけか

だが
戦いに関しちやあ
チエリーボーイ
だったなあれは

猪突猛進……
素人丸出しの
動き

何より
まともな
武器を持って
なかった

そもそも戦争で
好戦的な個体は
淘汰された
んじゃないか？

本土から逃げてきた
生き残りなら
もつと臆病なはずだ

そんな連中が
どこで自信を？

街で魔物が
出続けているのと
何か関係ある
のじゃないかね？

……



エキユレイユさん



はい

どうしましたか？



町民に
内部被害が
あります

すでに
収束処置が
必要な段階で…

貴殿に対応を
要請します!!



詳細を

はっ

昨日、
患者二名とも
ハチ魔物による
襲撃を受け、

現在その仔を
身籠っている
状態にあります



出産経験は
ありますか？

二人だけ…

人間だけ
ですか？

……はい



医療器具を
用意しますので

少々お待ちを



転移魔法…!!

高度な魔法を…!!

あらかじめ
準備しておいて
座標と条件を
明確化しておけば
難しくはない
ですよ

ねえ…
お姉さん

お母さんとねーね
ずっと苦しそうに
してるの…!!

ぐすっ……

しなないよね…



大丈夫
私がいれば
まず死ぬことは
ありません

それより
君はこのまま
ここにいろ
つもりなの？

この年の子に
見せるのは
まだ早すぎる
しほり

す…

すいません…

この子ずっと
離れたがら
なくて…

仕方ないですね
このままやりますか

鎮痛剤はいりました

強化魔法と
促進魔法を
かけました

そのままふんばって
ひりだしてください

んんんんん！！

はー…

はー…

はー…

はー…

はー…



なにこれ……

な……

お母さんから
でっかいうじ虫が
でてきた……？

グワッ

ビクッ

ズルッ

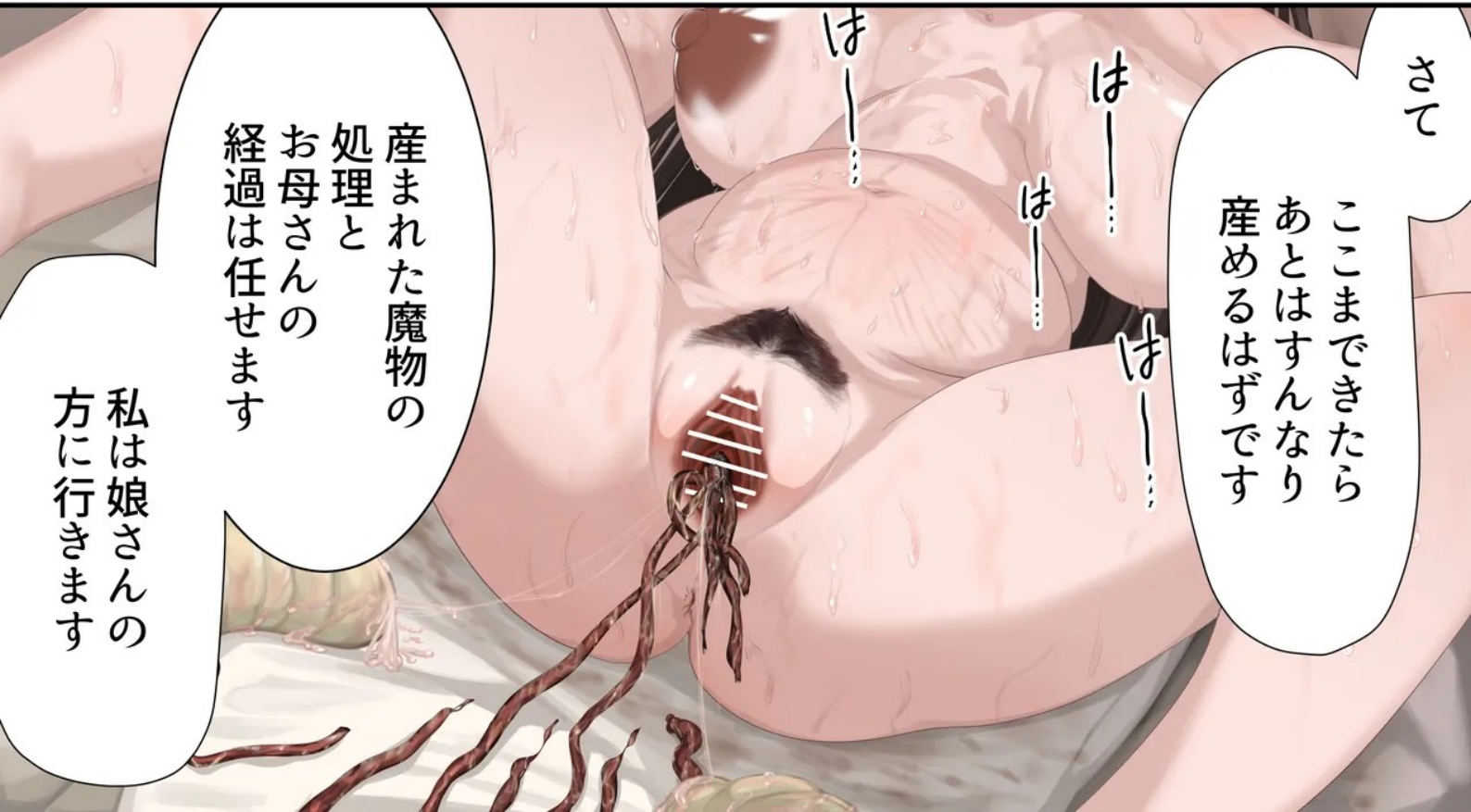
グワッ

グワッ



まともな
大人に
なりたいのなら

いま見たことは
忘れた方が
いいですよ



さて

ここまできたら
あとはすんなり
産めるはずですよ

は……

は……

は……

は……

産まれた魔物の
処理と
お母さんの
経過は任せます

私は娘さんの
方に行きます



これは……

ボク……



透視魔法
!!







子宮の大きさに対して
かなり胎児が大きく
なっているうえに数も多い……

これではこの子に相当な
負担がかかります……

三



強化魔法……
少し強めにかけるべきですね





ああああ...

ニムカああああ



おもろし…

しちゃった…

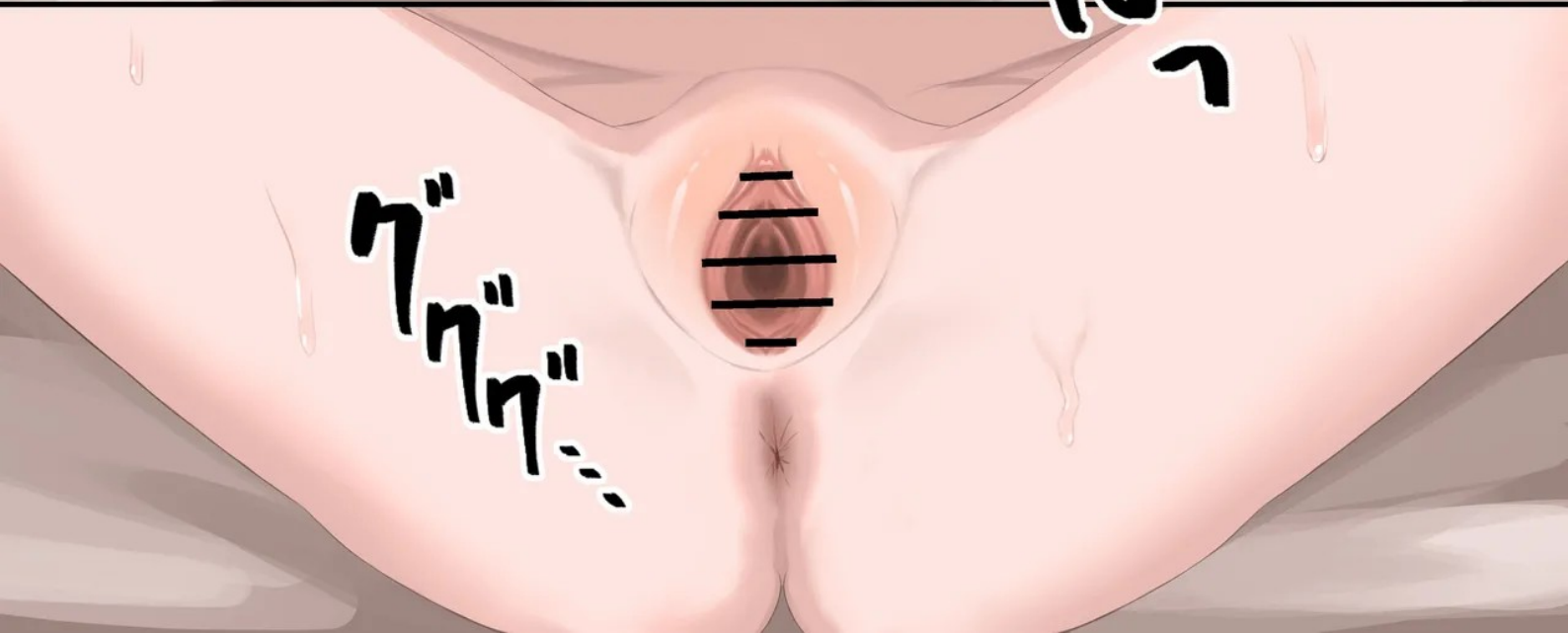
気にしないでください
普通のことなので
恥ずかしくありませんよ

しよわ

…



はっ



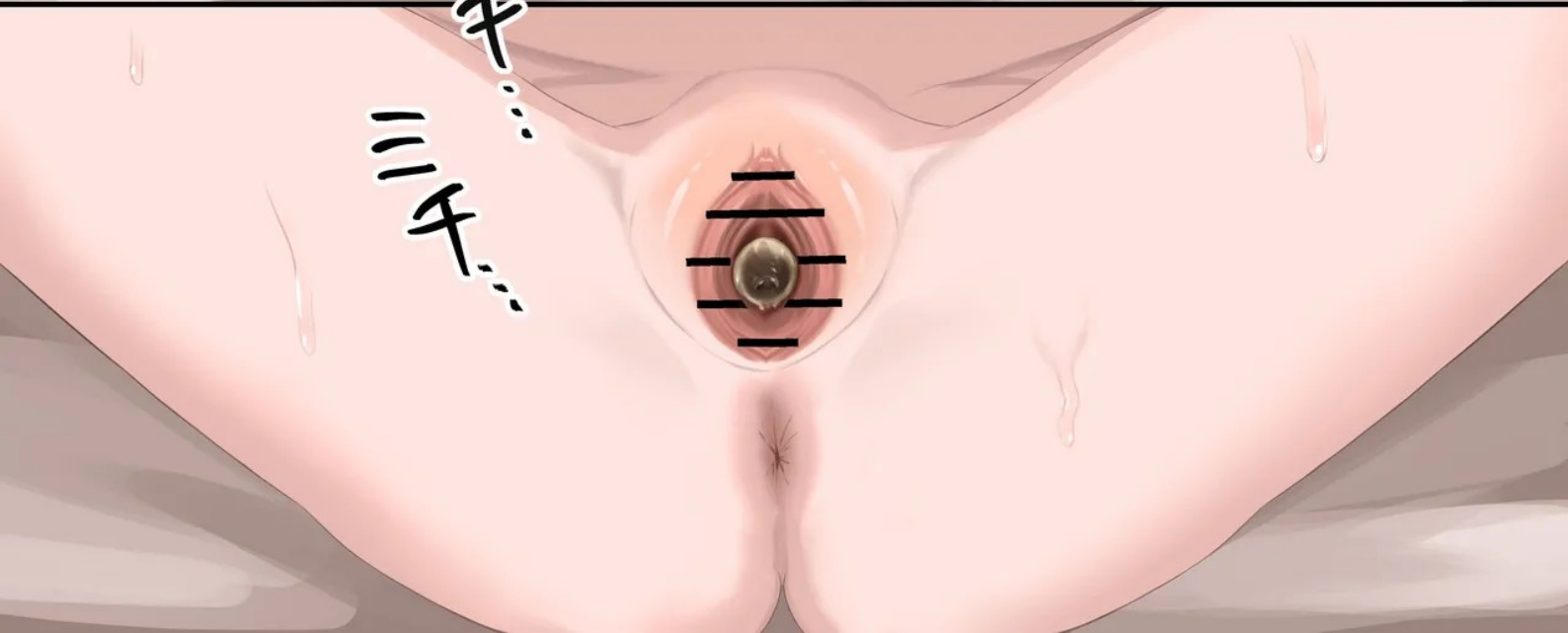
グググ...



その調子です

は... は... は... は...

んあぁ...
ごてる...



ニク...
ニク...



あああああ!!!

ビ
ン
ン



良いですよ

その調子で…

はあ

はあ

はあ

なんて大きさ……
ここまでだと母体に
相当な負担が……!!

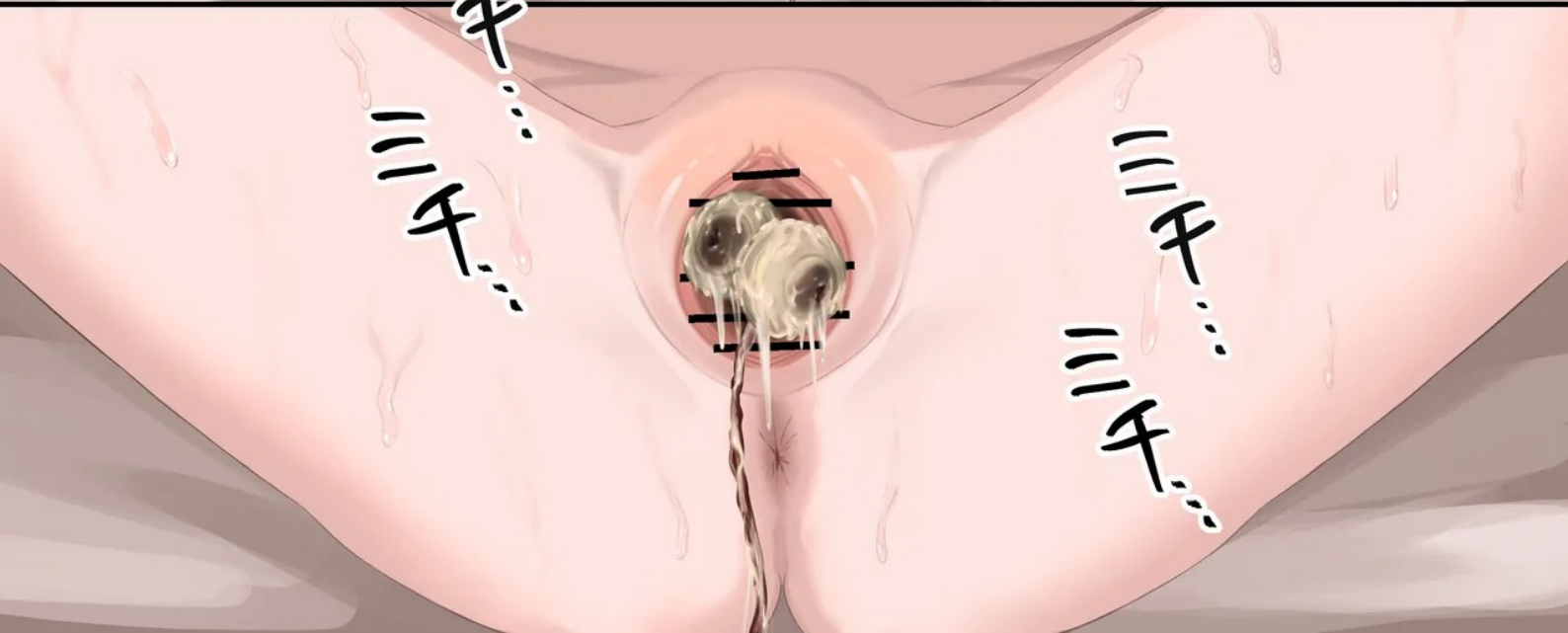
もじもじ……



!!

ギョッ!!

間髪入れず
3匹目がもう——!!



ニクニク...

ニクニク...

これは…!!

二匹一緒に…!!

は…
は…
は…
は…

仕方ありません
引っ張り出します

ニヤニヤ
ズニ

ハ
ニヤニヤ





おおおおお



びしょ



通常の魔法だけでは厳しい…
感覚遮断魔法……
——いや、安易に
使うべきではありません

ひとまず胎内にいる
残りの胎児に
沈黙の呪いをかけて……
ここは母体を休ませる時間を
少しでも確保しなければ





はい……

は……

は……

は……

ひゅん、ひゅん

ひゅん、ひゅん

母乳がかなりあふれ出てきています。ふき取りをお願いします。







はぁ...

はぁ...

沈黙を入れたというのに
出てくる幼体が……!?

!!?
!!?

ぐしゃゅん!!



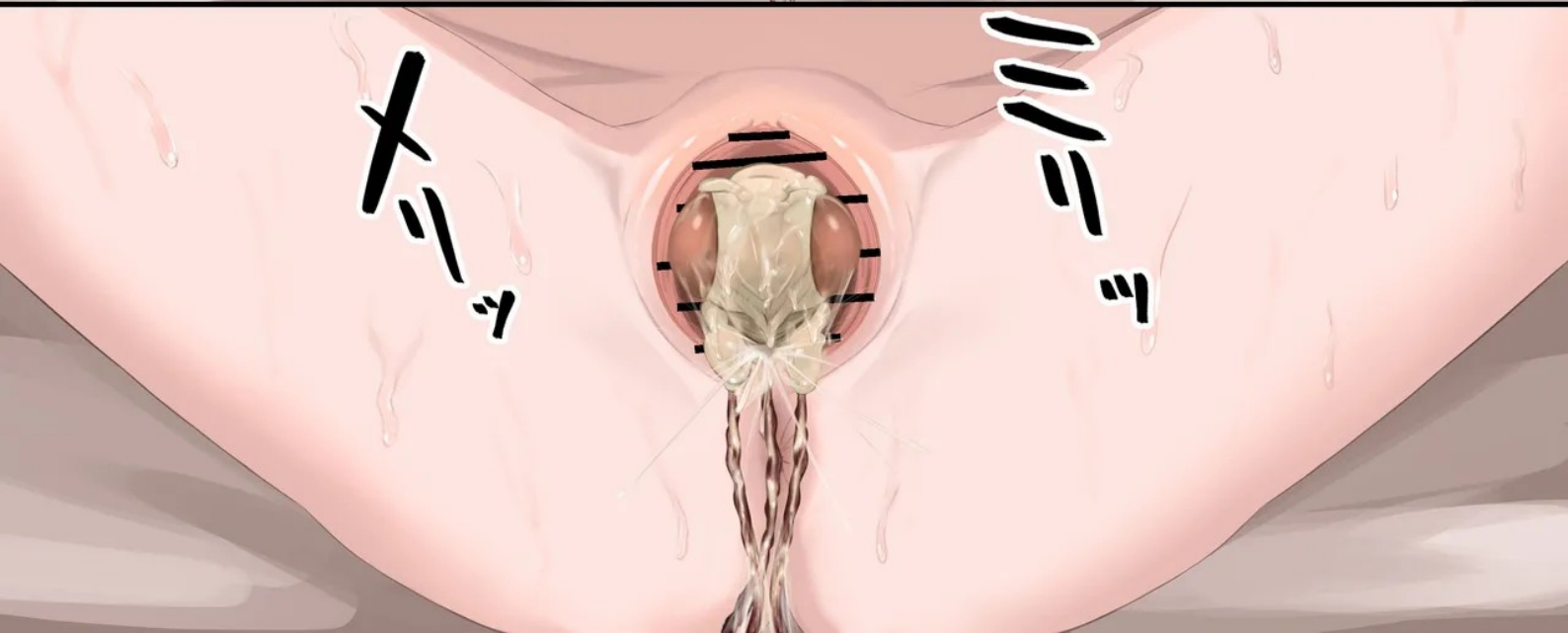


ラララッ!!

ああああッ!!

いだい!!
いたいよママあ——!!

大きい上に
脚もちゃんと
生えているから——
これでは——
!!



クハッ

ニニニッ

ひぎゃあああああ!!

エキュレイユさん
このままでは
命に関わります

ええ

わかっています

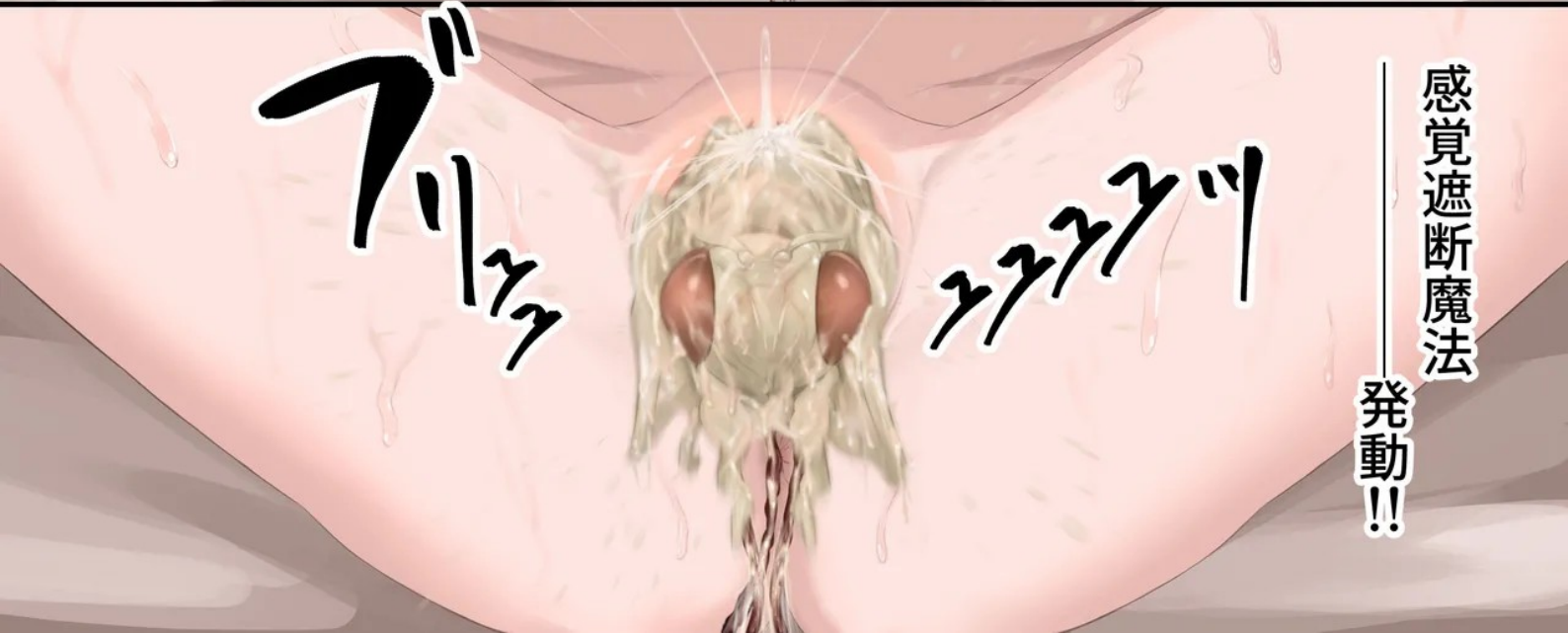
みちん

みちん

ぐりゅん

ぐちゅん





感覚遮断魔法
発動!!



あぁっ……

んううう……

んおおっ……

感覚遮断魔法を使いました

ずりゅ……

しかしこれでは
一時的な処置にしかな
りません



このまま
分娩を続けければ

彼女の生殖器に
取り返しのつかない
損傷が入ってしまう...

これ以上続けるのは
厳しいですね

は...
は...
は...

は...
は...
は...

ど...

どうするんですか...?

仕方ありません

あまり
やりたくないですが
秘策を使います



秘策………？

一体何を
するつもり
なんですか………!!

座標指定

完了

転移魔法

発動!!

TO BE CONTINUED















